

# 池の水抜いたら 外来魚消えた



水を抜いた井の頭池で生き物を捕まえるボランティア  
—2014年2月撮影（生態工房提供）

外来魚の駆除に取り組んでいる東京都立井の頭公園（武蔵野市、三鷹市）で、ブラックバス（オオクチバス）とブルーギルの姿が消えました。池の水を抜いて底を天日干しする「かいはり」という作業を繰り返したところ、約1000匹いたブラックバスは3年以上、1万匹を超えていたブルーギルも1年以上見つかっていません。外来魚を絶やすことに成功した可能性がります。

【大久保昂】

井の頭公園は1917年に開園しました。公園にある井の頭池では数年前までブラックバスとブルーギルがたぐざいました。ブラックバスもブルーギルも、日本固有の生き物が生息する環境を破壊しかねない特定外来生物に指定されています。

そこで東京都は、武蔵野市などで自然保護に取り組むNPO法人「生態工房」と一緒に2014年1月から本格的な駆除を始めました。その方法が「かいはり」です。池の水を抜き、底を天日で干すことで水質を良くします。こ



ブルーギル



の時に池の生き物を捕まえ、もともとそこに生息していた在来種だけを戻しました。捕まえた生き物は約2万匹に上りました。うちブルーギルは1万2712匹、ブラックバスは1177匹と、外来種が8割以上を占めました。15、17年度の冬もかいはりを行いました。2回目の後はブラックバスが1匹もかからなくなり、3回目以降はブルーギルも見つかっていません。今月15日に生態工房のメンバーやボランティアの市民ら6人がボートで井の頭池を巡ったところ、外来種のア

メリカザリガニを捕獲するためのわなには、ナマズやテナガエビといった在来種がかかっていて、ブラックバスやブルーギルはいませんでした。生態工房の佐藤方博さん（46）は「ブラックバスの根絶は間違いない。ブルーギルも今年の夏の産卵期に確認されなければ、いなくなったと判断してよいのではないか」と話しています。かいはりを通じて生態系の保護に詳しい静岡大学の加藤英明講師は「何度が繰り返せば、外来種を根絶できる可能性を示せた」と評価しています。

## 全国に広がる「かいはり」

「かいはり」を通じて外来種を駆除する動きは全国に広がっています。14年1月の井の頭公園での活動が報道されたことが、ブームのきっかけとされています。

テレビ東京が17年1月に始めた番組「緊急SOS！」

池の水ぜんぶ抜く大作戦」で

は、これまで約60か所のかい

ほりを紹介してきました。

番組にも協力している加藤

講師は「地域で生き物の関

わり方を学ぶ機会として、か

いはりを続けていくのが望ま

しい」と話しています。